

## 【応募用紙】

### 1 応募者概要

団体名	(ふりがな:よこはましりつみほしょうがっこう) 横浜市立三保小学校		
代表者の役職・氏名	(ふりがな:いずみ りょうじ) (役職) (氏名) 校長 和泉 良司	会員数	(平成 29 年11月現在)1011名
ホームページアドレス		活動開始年	平成 24 年 4 月
活動範囲 (複数選択可)	① 学校内                          ② 学校外 3 その他( )		
活動分野 (複数選択可)	① 川・海・水                      ② 緑・樹林                      ③ 農業 ④ 3R                                  ⑤ 環境教育・環境学習                      ⑥ 生物多様性 7 地球温暖化対策                      8 その他( )		
活動の目的やねらい	児童による豊かな地域自然等の写真による紹介活動		
過去に受けた表彰および受賞年度	第20回 横浜環境活動実践賞(平成25年度)		

### 2 最近3年間の主な活動

	活動・取組・イベント等の名称 発行した印刷物等の名称	参加人数、 発行部数等	詳細内容
平成26年度	○こどもエコフォーラムへの参加 ○6年生総合的な学習の時間「我がまち ふるさと 三保」をきっかけに児童達が地域に出て、自分たちで写真を撮り、紹介することができた。	5年生 6年生	6年生の総合的な学習の時間「我がまち ふるさと 三保」では、三保地区の自然の豊かさに気付き「この場所がずっとこれからも残っていてほしい」という願いをもった。そして児童らの発案により、自分たちで地域の写真を撮り写真展を開いたりして、みんなに紹介したいということになり、区役所主催の「緑区を撮る」に応募することにした。そして区役所の紹介もあり、地区センターで写真展をすることもあった。
平成27年度	○こどもエコフォーラムへの参加へ参加し、代表児童により自分たちの写真撮影等の取組を発表する。	6年生	昨年度に引き続き、「我がまち ふるさと 三保」の活動では、三保の自然の素晴らしさを伝えるために地域の写真を撮った。もっと多くの方に知ってもらいたいという子ども達の思いをこどもエコフォーラムで発表した。写真を見た方からたくさんの感想をもらい、子ども達は「自然を残したい」という思いから、「残さなければならぬ」という思いに変わっていった。
平成28年度	○引き続きこどもエコフォーラムへの参加 ○6年生「我がまち ふるさと 三保」の活動を継続。	6年生	6年生の「我がまち ふるさと 三保」の活動は、平成23年度からスタートし、継続している。地区センターでの写真展開催では、児童らのアイデアで中山駅前で作りのチラシを配布したり、大きな声で呼びかけたりして宣伝活動を行った。このように児童自ら様々な活動を通して地域のよさを感じ、地域へと発信している。



### 3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
学内の生徒等や教員、保護者との関わり	6年生が総合的な学習の時間「我がまち ふるさと 三保」で撮影した写真	○3年生が地域の自然を学ぶために6年生の撮影した写真を活用。また、写真は地区センターでの展覧会や区役所、中山駅構内での展示を行い多くの保護者に見ていただいた。さらに、卒業式では体育館に全ての写真を展示した。
自治会・町内会との関わり	地域防災訓練	○これまでは別々に行っていた校内の避難訓練と地域の防災訓練を同時に開催し、地域全体で取り組むことで防災への意識を高めている。
学外団体との関わり	新治市民の森愛護会 にいほる里山交流センター 梅田川水辺の楽校協議会	○2年生が遠足で竹の切り出しを行い、その竹を使用し竹ぼっくりや竹でっぽう作りを行った。竹という一つの材から広がる材への愛着、まちの自然を守る地域の方々との触れ合いから、自分たちのまちを思うふるさと意識をもち始めている。 ○市民の森を中心としたウォークラリー、学校林の手入れ等 ○地域の梅田川で生き物観察や水辺での活動
企業等との関わり	日産財団 高山写真店 東屋豆腐店 日本醤油協会	○研究助成金 ○プロの写真家に写真の撮り方を学ぶ ○豆腐作りを通して大豆から豆腐ができていることを学ぶ。 ○醤油の原料と作り方体験の出前授業
行政との関わり	横浜市緑区役所	○平成24年度からスタートした緑区フォトコンテスト「緑区を撮る」に毎年、約180名の6年生の写真作品を応募。継続して数点の作品が入賞している。 また、6年生の理科「大地のつくりと変化」では、地域のハザードマップを作り、減災についての学習に協力していただいた。
その他、環境以外の分野との関わり	みどりアートパーク 緑区社会福祉協議会 劇団四季	○普段捨ててしまうような材料を加工したり組み合わせたりして自分だけの「生き物」を工夫してつくる図工の出前授業 ○福祉体験と障害者理解の授業 ○「美しい日本語の話し方教室」

### 4 団体の発足経緯、活動を始めたきっかけ

※ 立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

本校は隣接する地域に、新治市民の森・三保市民の森、念珠坂公園、梅田川、水田等を有し、大都市としては極めて恵まれた自然環境に囲まれている。そこで、地域の自然や人材を活用し、各学年で森林愛護会、河川愛護会、公園での活動支援の市民活動グループ、生産農家等と連携し学習体験の質を高めている。また、学校ボランティアや地域との関わりを深め、おやじの会と連携したりサイクルステーションの設置や3R活動の推進、公園や通学路等地域を定期的に清掃する地域のリーンプアップや、むかし遊びとして社会福祉協議会とも連携している。このような環境の中で「持続可能な社会づくりを担う児童の育成」を目指して、ESD（Education for Sustainable Development）の研究と実践に取り組んでいる。



## 5 今までの活動

### 活動の目標・ねらいに対する成果

6年生の児童らの発案で、継続的に地域の様々な生物や、今は少なくなった小川、水田を中心とする里山の景観を児童一人ひとりの眼で捉え、映像を通して学校の後輩や保護者のみならず地区センターなどで紹介をする活動を行っている。

これにより、子ども時代を過ごし、児童のふるさととなる三保の景観を見直し、自分たちの町そして横浜に対する思いを深めることができています。子ども達の捉えた映像は地域の大人にも好評で、自分たちも毎年新しい発見を地域に見いだしている。

### 生物多様性に関する取組（生物多様性特別賞の選考の参考とします）

※取組の中で、生物多様性に関するものを記入してください。

三保地区は新治や三保の市民の森、梅田川・恩田川、水田と生産者農家が一体となった大都市では希有な地域である。ここに学ぶ子ども達は被写体として森の樹木・草花・昆虫、水辺の水生生物・野鳥、水田で生息する生物など極めて多様な生物の存在に気付くことができる。その様子は毎年5学級で170～180名の児童が捕らえた映像によく現れている。この活動を通して子ども達は毎年、地域の豊かで多様な生物に新たな発見をしている。

## 6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

6年生の「我がまち ふるさと 三保」では、先輩の写真の後輩が見ることで活動への意欲をもつ。想いを継続させるとともに、デジカメやプリンター等の学習環境を充実させることも重要だと考える。

持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観をもった児童の育成を目指すため、地域の生物多様性に気付き、更に自然を守ることはもちろんのこと、地域の人との関わりを大切にしていきたい。そして子ども達自ら取り組んできたこれらの活動が継続していくためには、地域の特性をいかした学習活動にも力を入れ、より持続可能なものにしていきたい。

## 7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※最も注目してもらいたい／評価してもらいたい取組や、これまでの項目に当てはまらないPRポイントについて具体的に記入してください。

本校の児童は、恵まれた自然環境と地域の方々に見守られながら、諸感覚を使った体験的な学びを通して様々な問題解決学習に取り組んでいる。6年生では、小学校生活の経験をいかし、地域の自然を写真に収める。撮り始めは自分の想いをうまく表現できなかったり、撮った写真に納得がいかなかったりした。しかし学校のアルバム写真を撮影担当しているプロの写真家に指導していただくことができ、写真撮影も上達してきた。また、活動の中でこれまで関わってきた場所や人の魅力を再確認するとともに、ファインダー越しに生き物の多様性にも気付く。

写真のタイトルにも工夫を凝らし、一人でも多くの人に三保の場所の魅力を伝えようとしているうちに、この場所が自分たちにとって「ふるさと」であることにも気付き始め、大人になってもこの場所で暮らしたい。また戻ってきたいという想いを育むことが持続可能なまちや社会をつくっていくことにつながると信じている。



# 『我がまち ふるさと 三保』

～児童が主体となり、地域自然をいかした取組～ 横浜市立三保小学校

地域の自然のよさを写真でアピール  
こどもエコフォーラムで取組について発表



チラシを配る子どもたち

自分たちが撮った写真をたくさんの人に見てもらいたいという思いから、写真展を開催。手作りのチラシを中山駅前配布。



写真で伝えるというアイデアを発案



多くの気づき



写真展の宣伝活動

＜写真展開催 ～ハーモニーみどり～＞



手作りチラシの作成



伝えたい！  
三保の自然展  
～未来に残そう まちの自然～



より多くの人へ発信

こどもエコフォーラムで写真パネルの展示。写真を見ていただいた方にアンケートの協力を得る。「横浜にまだこんな場所があるとは知らなかった。訪れてみたい。」「この活動を続けて欲しい。」活動の励みとなる言葉をたくさんいただき、自分たちの活動に大きな価値を見出すことができた。



児童・生徒のESD 交流会に参加  
JICA 横浜にて



自分たちの取組について他校の児童や中学生と意見交換を行った。地域を大切にしようとする仲間が他にもたくさんいることを知り、活動の大切さを再確認することができた。